

飯 監 第 1 0 号  
令和 4 年 8 月 2 9 日

飯南町長 塚原 隆昭 様

飯南町監査委員 那須 照男

飯南町監査委員 安部 丘

令和 3 年度飯南町一般会計、各特別会計歳入歳出決算及び  
各公営企業会計決算並びに基金運用状況の審査意見について

地方自治法第 2 3 3 条第 2 項及び地方公営企業法第 3 0 条第 2 項並びに地方自治法第 2 4 1 条第 5 項の規定により、審査に付された令和 3 年度飯南町一般会計、各特別会計歳入歳出決算書及び各公営企業会計決算書、その他政令で定める書類、並びに令和 3 年度基金運用状況について、飯南町監査基準及び監査事務運営要綱に準拠し審査した結果、次のとおり意見を付す。

## 1. 審査の概要について

### (1) 審査の対象

- ・令和 3 年度飯南町一般会計及び各特別会計歳入歳出決算書及び関係諸帳簿、証書類
- ・令和 3 年度各公営企業会計決算書及び関係諸帳簿、証書類
- ・基金の運用状況に関する調書類

### (2) 審査の期間

令和 4 年 7 月 2 6 日から令和 4 年 8 月 2 6 日まで

### (3) 審査の手続き

町長から提出された令和 3 年度飯南町一般会計、各特別会計の歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書並びに実質収支に関する調書等について審査した。

各公営企業会計については令和 3 年度決算報告書、損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書等について審査した。

基金の運用状況については運用状況に関する調書等を審査した。

審査に付された各会計の計数に誤りはないか、財産運用は健全か、財産管理は適切か、また予算執行については関係法令に従って効率的になされているか等に主眼をおき、それぞれの関係諸帳簿及び証拠書類との照合を行うとともに、現地確認を行う等の審査の手続きをした。

## 2. 審査の結果

一般会計、各特別会計、各公営企業会計のすべてにおいて計数に誤りはなく、関係諸帳簿及び証拠書類と符合しており適正であると認めた。

基金の運用状況に関する調書の計数についても、関係諸帳簿及び証拠書類と符合しており誤りのないものと認めた。

## 3. 審査意見

### 【一般会計、各特別会計】

令和3年度の普通会計決算額（一般会計）は、歳入総額8,815百万円、歳出総額8,577百万円、歳入歳出差引額238百万円、実質収支183百万円の黒字決算となっている。

歳入について、地方交付税は増額となったが、国県支出金、基金繰入金、町債等が減額となり歳入総額は前年度に比し679百万円の大幅減額となっている。

歳出について、災害復旧費、住民税非課税世帯等臨時特別支援事業、新型コロナウイルスワクチン接種対策事業等が増額となったものの、特別定額給付金事業、来島拠点施設整備事業、体育施設維持修繕工事等の大規模事業の完了により歳出総額は前年度に比し738百万円の大幅減額となっている。

国民健康保険事業特別会計他2特別会計のいずれにおいても、実質収支額は黒字決算となっている。

令和3年度は町債の償還、繰上償還を合わせ1,199百万円余の償還が行われているが、1,203百万円余の新たな町債が発行され、町債残高が平成27年度より7年連続増加しその額は10,927百万円余となっている。

実質公債費比率は9.4%となり前年度に比し1.0ポイント下がったものの、経常収支比率、町債残高が依然、町が定めた目標値を超える状態となっている。

実質公債費比率の将来推計によると、令和8年度には実質公債費比率が17%を超えると予測されているが、実質公債費比率の上昇抑制を図るためには繰上償還の継続と共に、町債の発行の抑制が不可欠である。

徹底した経費の削減に努めるとともに、優先度や事業効果を見極め、事業の抑制を図りながら慎重な財政運営に努められたい。

### (1) 翌年度繰越額について

令和3年度の翌年度への繰越額は1,201百万円余で令和2年度より852百万円余の大幅増となっている。

令和3年の豪雨災害による災害復旧費の繰越額が537百万円余計上されているが、災害の発生が7月中旬であり、その後の災害査定等の進捗状況からやむを得ないものと思われる。

乳用牛生産振興事業の繰越額412百万円余については、次年度も令和3年度を大きく上回る事業費が予定されており、繰越後の進捗管理に万全を期すこと。

繰越額の大幅な増額により、次年度発注にも大きな影響を及ぼし更なる繰越額の増につながる恐れがある。

繰越額の減額に向けた早期発注、年度内完成に向けた進捗管理を徹底するよう努力されたい。

## (2) 予算執行について

一般会計において歳出決算額が前年度より738百万円余減額となっているが、不用額は160百万円余増額の420百万円余となっている。

各特別会計においても同様に不用額が見受けられる。事業執行上やむを得ないものもあるが、今後は予算の早期減額補正を行い、予算を有効に執行するよう努められたい。

予備費の充当額は、15百万円余で前年度に比べ8百万円余増加しており、施設や機材の日常的な点検を徹底し、予備費削減に努められたい。

## (3) 公共施設について

公共施設の老朽化が進んでおり、維持管理費が年々増加傾向にある。

公共施設等総合管理計画に基づき、これらの施設の集約化、廃止、譲渡が検討されているが、早期に具体的な進行を図り、維持管理費の低減につなげられたい。

## 【病院事業会計】

令和3年度の純利益は49百万円余となり、2年連続の黒字決算となった。

入院収益は、新型コロナウイルス感染症の影響で入院患者数が減少したことから、直近5年間で最低額となった。外来収益は、医師体制を強化したことで増加に転じ、直近5年間で最高額となっている。

黒字決算ではあるが、新型コロナウイルス感染症対策のワクチン接種委託料や国・県補助金交付という特殊事情があつてのものであり、今後は入院収益の改善に取り組むとともに、経費の削減にも一層注力され、健全な病院経営が継続できるよう努められたい。

### 【簡易水道事業会計】

令和3年度は純損失53万円余を計上し赤字決算となった。人口減少にともない給水収益が減少するなか、佐見地区営農飲雑用水施設の減価償却費が増加したことによる。

今後も厳しい経営状況が続くと見込まれるだけに、近年に供用開始した地区の接続率向上を図るとともに、徹底した経費削減に取り組み料金回収率の改善に努められたい。

企業債償還残高が13億9千万円余もあるが、一方では管路の老朽化が進行しており、耐用年数である40年を経過した管路が全体の60%を超えている。長期間・広範囲にわたる断水といった重大事故に至らぬよう「飯南町簡易水道事業経営戦略（平成29年度～平成38年度）」を早急に見直し、具体的措置を講ぜられたい。

### 【下水道事業会計】

令和3年度は純利益99百万円余の黒字決算となった。一般会計補助金が前年度から8千万円弱増加したことが主因である。

企業債償還残高が18億4千万円余あり、今後は適切な維持管理を図りながら新規企業債発行を必要最小限に抑制し、企業債償還残高の減少に努められたい。また、令和3年度下水道事業会計予算において当年度利益剰余金処分量44百万円余について資本的収支に補填するとしており、減債積立など目的を定め利益剰余金の処分をされることが望ましい。

### 【基金の運用状況】

飯南町の令和3年度末の基金残高は、財政調整基金、減債基金、特定目的基金、その他基金を合わせ39億41百万円余である。

令和3年度は、特定目的基金において事業に充当するため1億3百万円余の取り崩しを行っているが、一方で3億27百万円余を積み立てている。

その結果基金残高は、昨年度から223百万円の増額となった。

この基金は一括運用とし、約34億81百万円余を債券、定期預金で運用し、令和3年度も14百万円余の運用益を得ている。

今後も基金の安定的な管理、運用に努められたい。

以上、意見を付して審査の結果を報告する。